

ガンコ親父の

昔々、ある藩の領地に働き者の松次郎という若者が住んでいた。

松次郎は田畑を一人で管理し、米や野菜をしっかりと作って、村一番の働き者として知られていた。その松次郎は田畑からの帰りに必ず、村外れの地蔵さまに丁寧な手を合わせておがんでいたのだった。「こうやってしっかりと作物ができるのも、お地蔵様のおかげです。ありがたいことです」。

村の人間が「どうしてそんなにおがむの？何か良いことでもあるのかい？」と訊ねると、松次郎は「良いことはなくても、毎日お地蔵様のニコニコとした顔を見るだけで、心が洗われるんだ。『お地蔵様推し』なんだよね、な〜んちゃって。あなたもおがんでみたら」と勧めたりするのだった。

ところが松次郎は流行りの感染症にかかってしまい、田畑で働けなくなってしまう。去年は天候不順の不作で、今年はコメの値段も高騰。お殿様からも秋の収穫に向けて全力で頑張ってもらいたいと、領内におふれも出ていたばかり。

病気で働けない松次郎は残念でならなかった。松次郎は横になったまま「お地蔵さん、無念です。田植えができません」と手を合わせた。

数日後、知り合いが寝込んでいる松次郎のうちに駆け込んで来て、「誰か知らんが、あんたの田んぼで田植えをしていたよ。見たこともない人だった」と教えてくれた。病気の松次郎に代わってボランティアで田植えをしている人がいると噂は広がり、やがてお殿様の耳に入ったのだった。

こんな世知辛い世の中に善行を行う領民がいるとはお見事！お殿様はあまり乗り気ではなかったそのボランティアをお城に招き、ご馳走とお酒を振る舞った。帰りに「これは私がいつも使っているぐい呑みカップだ、その方にこれを差し上げよう」とお殿様は機嫌良くくれたのだった。

ようやく動けるようになった松次郎は自分の田んぼに出向いたが、田植えは見事に終わっていた。松次郎は帰りにお地蔵様に報告するため立ち寄ると、いつものところにお地蔵様は立っていたが、よく見ると足元が泥で汚れていた。松次郎は驚いた。頭には笠の代わりに大きめのカップを逆さにして乗せていたが、そのカップの模様がお殿様の家紋と同じだったのだ。お城に招かれたという話は松次郎も知っていたので、すぐに確信できた。あの噂だったボランティアはお地蔵様の変身した姿だったのだ。ありがとうございます、お地蔵様。

その田んぼではもう稲がしっかりと育っている。多少水不足気味ではあるが、大丈夫だろう。あれ依頼、松次郎はお地蔵様に『しまっちゅ伝蔵』をお供えすることにしていた。今年の新米収穫時期が迫ってきている。領地のみんなが美味しい新米をしっかりと食べることができるかもしれないと思うと、松次郎は心から嬉しかった。

「やった〜、お地蔵様」と拳を突き上げた。



奄美黒糖焼酎

しまっちゅ伝蔵
でん ぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



900ml (25度) 1800ml (25度) 1800ml (25度)



25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
TEL 0997(65)0251



「新米」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp>

お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。